行政視察等報告書（個人用）

令和 6年 2月 9日

知立市議会議長 様

報告者	民友クラブ　　杉浦　弘一
日時	令和 6年 2月 1日(木) 14:00～15:30
視察(研修)場所	埼玉県 入間市 入間市博物館
目的（テーマ）	入間市のお茶文化について

【 概　要 】

1. 入間市博物館について

（１）概要

①主催事業として美術展を開催するほか、市民に創作発表の場（市民ギャラリー）を提供する美術館的機能をもっている。

②地域の歴史資料として重要な文書などを収集・公開し、その活用をはかる文書館的機能や、地域やお茶に関する図書類・映像ソフトの閲覧、視聴ができる、ライブラリー機能をあわせもつ博物館である。

③地域の歴史・民俗・自然・文化等に関するさまざまな情報を市民に提供し、地域の情報センターとなることを目指している。

④狭山茶の主産地である入間市の博物館として、狭山茶をはじめとする日本各地や世界のお茶の製造・喫茶風習、茶道文化などに関する調査研究を行い、さまざまな形で情報を提供している。

（２）常設展示場

①入間の自然

・アケボノゾウのいた太古の入間や、加治丘陵の生態ジオラマ等。

②入間の歴史

・「昭和の入間」コーナーをはじめ、入間市域の地形の特徴、旧石器時代から現代までの入間市の歴史。

③茶の世界

・世界のお茶、日本のお茶、狭山茶の歴史など、様々な「茶の世界」。

（３）主な催し物

①各種美術展覧会（１２回／年）

②展示解説案内

・展示解説員が展示資料について解説。

③狭山茶振る舞い

・狭山茶の主産地入間市の博物館ならではの無料のお茶の振る舞い。

④日本、世界各地のお茶体験

・日本各地、世界各地の様々なお茶を月ごとに紹介。

⑤機織り体験

・簡易機織り機で毛糸のコースター作成。

⑥サイエンスバー

・工作や実験を通して「身近にある化学」の体験。

⑦館庭の自然散歩

・80種の樹木、100種以上の草花から、四季折々の見どころの紹介。

2. 狭山茶産地の風土と特徴

（１）狭山茶の歴史

・狭山茶は、埼玉県南西部の入間市・所沢市・狭山市をはじめとした入間郡内を主産地とする煎茶であり、この狭山茶の産地の中で最も生産量が多いのが入間市である。もともとチャの木は温暖な場所に生育する樹木で、寒さが苦手なため、狭山茶産地は、国内の大規模な茶産地としては北限に位置している。そこで、品種改良をして寒さに強いチャの木をつくったり、寒い土地でとれるチャの葉を生かした茶作りの工夫が長年続けられてきた。

・地元では「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山でトドメさす」といわれ、茶の形状よりも味を重視した茶づくりを行ってきた。
仕上げの工程で行われる「狭山火入れ（さやまびいれ）」による独特の香ばしさや、厳しい気象条件のもとで育つ肉厚の葉を用いることによる、甘く濃厚で、コクのある味が特徴である。

・茶業の形態としては、農家が自ら栽培したチャを製茶し、販売までを一貫して行う「自園・自製・自販」形態が主流となっているのが特徴となっている。

（２）狭山茶の育つ風土ー上湿下乾（じょうしつかかん）ー

・狭山茶は、主に「武蔵野台地」で栽培されています。
武蔵野台地は、大昔に川によって流されて来た砂や石ころの層の上に、富士山などから飛んで来た火山灰が厚く降り積もってできた。

・火山灰が積もってできた赤土の層（関東ローム層）や、その下の砂や石ころの層は、水はけがよく、雨水は地下にしみこんでいくため、この台地は水田には適さず、古くから農業の中心は畑作であった。チャの栽培にとっては、この水はけの良い土地が好都合で、チャの木は雨の多い土地を好むため、年間降水量1300ミリ以上の場所が栽培の中心地となっており、入間市の年間降水量は約1500ミリと、これをかなり上回っている。

狭山茶の茶畑

【 所感、知立市政への反映に向けた課題等 】

埼玉県入間市の入間市博物館を見学し、狭山茶の歴史や文化等を学んできました。

狭山茶は、水はけのよい武蔵野台地で栽培されており、農家が自ら栽培したチャを製茶し、販売までを一貫して行う「自園・自製・自販」形態が主流となっているのが特徴であります。

入間市博物館では、狭山茶をはじめとする日本各地や世界のお茶の製造・喫茶風習、茶道文化などに関する調査研究を行い、さまざまな形で市民をはじめ、県内外に情報を提供しています。

知立市におきましては、チャの木の栽培・製造はされていないと思いますが、方巌売茶翁（1759-1828）が、修行中に高遊外売茶翁の生き方に感動し、その門人の大典禅師から煎茶を習い印可を受け、その後伊勢物語ゆかりの地八橋にやって来て、荒れ果てていた在原寺を再興し住職となり、続いて無量寿寺の住職を務め改築してかきつばたを植え庭園をしつらえたいう歴史があります。

この歴史から、八橋かきつばたまつりの観光事業の一環として、知立のお茶文化を広めるべく、調査・研究を検討していきたいと考えています。

以　上

行政視察等報告書（個人用）

令和 6年 2月 9日

知立市議会議長 様

報告者	民友クラブ　杉浦　弘一
日時	令和 6年 2月 2日(金) 10:00～11:30
視察(研修)場所	埼玉県　秩父市　秩父まつり会館
目的（テーマ）	祭りの市民参加について

【 概　要 】

1. 秩父祭について

（１）秩父神社の例祭　秩父夜祭

・全国に知られる「秩父夜祭」を、地元の住民たちは端的に「冬まつり」又は「夜まつり」と呼んでいる。また近郷近在では「妙見まち」、北関東一帯の養蚕農家では「お蚕まつり」、そして東北から関東一円の露天商は「妙見さんの大市」と呼ばれてきた。
正式には、いうまでもなく秩父地方の総鎮守、秩父神社の年に一度の大祭である。

・全国の古いお社は、おおよそ土地の神話的風土をその社地と祭礼とで体現してきているもので、秩父神社もまた関東屈指の古社として、よく秩父盆地の生活風土を昔ながらの神話的世界に包み込んで、今はとかく薄れがちな故郷の風貌をなおも色濃く伝えている。

・秩父夜祭は、そうした故郷の祭礼文化として住民たちのかけがえのない行事であり、また参拝や見物におとずれる多くの客人たちの望郷の心を揺さぶる祭礼であり続けている。

（２）祭りの淵源

・祭礼行事は、重量感あふれる豪華な笠鉾と屋台とが、勇壮な太鼓囃子のリズムに乗って曳きまわされ、屋台歌舞伎や曳き踊りを上演することに加えて、冬の寒空に贅沢なほどの打ち上げや仕掛けの大花火を競演することでよく知られています。しかし実際は、いずれも秩父神社の夜の神幸祭にともなう「付けまつり」、つまり付帯の神賑わい行事として、江戸時代の後期から明治・大正にかけて盛んになったものである。

・その核をなす祭神出御の神事は、はるか古代に発祥した地元風土の神を祭る形式を今に伝える、はなはだ貴重な伝承祭祀

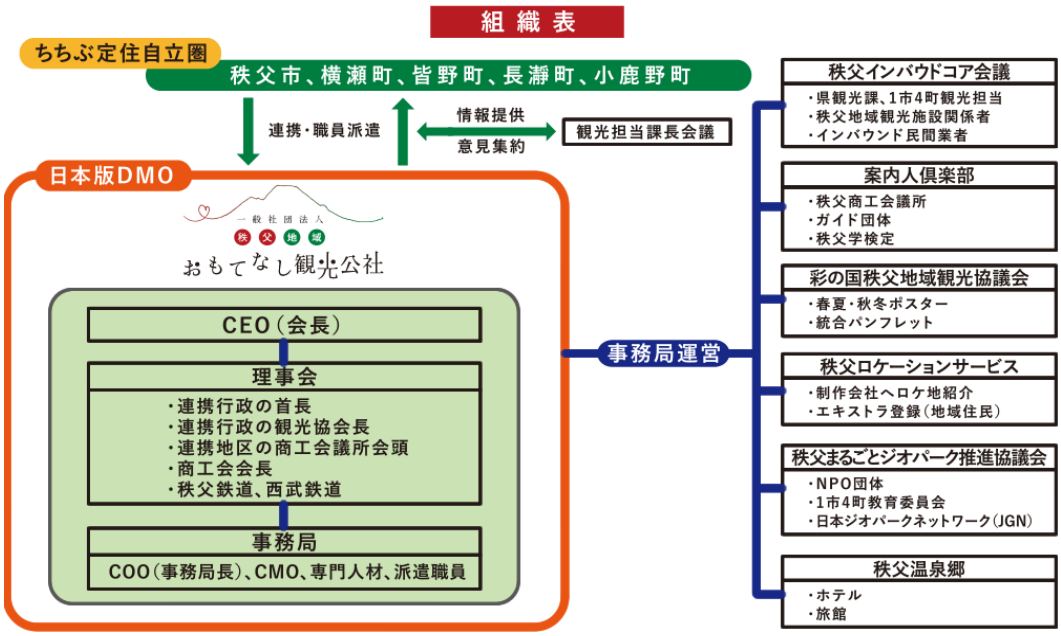
であり、この伝統文化の継承に意義ありと認められたからこそ、国の「重要有形・無形民俗文化財」やユネスコの「無形文化遺産」として指定されている。

・秩父夜祭は、江戸時代には祭が存在した記録があり、350年の歴史を誇っており、京都の祇園祭、飛騨の高山祭と並ぶ日本三大曳山祭に数えられている。

2. 一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社について

・ちちぶ定住自立圏を形成する、埼玉県秩父市・横瀬町・長瀞町・皆野町・小鹿野町の観光情報の紹介のほか、秩父での観光コースの提案などを行っている。その他、SNSを使った情報発信に力を入れており、特にFacebookでは、毎日秩父のフレッシュな情報を更新している。

（１）組織図



（２）秩父祭に関連する主な事業

①官公庁「第２のふるさとづくりプロジェクト」

・中高大学生を対象とした秩父地域の探求プログラムで、「祭り」をテーマに、秩父祭をはじめとする体験事業

②訪日外国人向け体験事業

・秩父夜祭の山車曳き体験＋ガイド付き秩父観光案内

【 所感、知立市政への反映に向けた課題等 】

埼玉県秩父市の秩父まつり会館を見学し、秩父祭の歴史や文化等を学んできました。

秩父夜祭は、毎年１２月２・３日に行われ、日にちが固定されているため、祭開催日の曜日によってかなりの差があるが、昨年は土・日にだったこともあり、２日間で約３６万人の人出があったそうです。

一番聞きたかったこの集客力の理由を尋ねてみましたが、いつごろからとか、何をしたからなどの集客力が上がった明確な理由はなく、「昔から」との回答でした。ただ、１９６９年に西武線が開通してから人で増えたと言えるとのことでした。

祭りの担い手については、各地域で小規模ながら笠鉾・屋台を曳行する夏祭りがあり、ここでの経験から秩父祭の担い手になっていく人が多いとのことでした。

地域外、市外からの祭り参加については、地域外の町内会と連携関係を結び必要な人員を依頼・確保しているとか、町内会以外の参加希望者を受け入れる「達磨会」という組織で運営をしている町内会もあり、積極的に外部からの参加者を受け入れているとのことでした。

そして、「一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社」が、学生や外国人を対象にした祭り体験事業を行っているのも、秩父祭の特徴の１つだと思いました。

今回の視察結果を踏まえ、祭り経験者の１人として、知立まつりの更なる繁栄を目指して、調査・研究を進めていきたいと考えています。

以　上